

保護者の皆様

令和3年9月10日
横浜市立南本宿小学校
校長 西尾 琢郎

今年度の体験学習についての本校の考え方

社会全体としての感染者数の推移は、ここにきてようやくピークを過ぎたという印象を受けておられる方も多いと思います。しかし本日(9月10日)現在でも、本来は入院治療が必要な患者さんが、病床不足によって入院できない状態は、まだ完全には解消されていません。学校には、コロナ感染以外にも、ケガや急病など、平時から緊急医療を必要とする事故等の可能性があることから、非常に緊張した運営を強いられる状態が長期間にわたって続いています。

一方、変異株によって感染状況の内容が大きく変化してきていることも、報道等でご承知の通りです。10代以下の感染者が大きく増加しているのは、これまで感染しにくかったものが感染するようになったというだけでなく、従来は無症状が大半であったものが、実際に発熱その他の症状を伴うようになり、それが検査される機会が増えたため、数字として見えてきたと考えるべきだと思います。さらにはこれまで見られなかった10代患者の死亡が報じられるなど、年齢的にもワクチン接種が難しい小学生においては、依然として油断のできない状況が継続していると受け止めております。

こうした中、本校では、まず4年生、5年生の宿泊体験学習を中止し、そこで計画していた活動や、それによる学習成果を、できるだけ交通機関に依存せずに別の形で実現するべく、検討を進めております。一方、6年生については、同じ状況に鑑みて、日光への宿泊旅行は見合わせるという判断を致しましたが、最終学年ということも勘案し、日帰り圏内での校外活動の可能性について、引き続き検討をしております。

緊急事態宣言の有無などといった社会の情勢に関わらず、予防及び治療の手段が確立するまでは、万一校内で感染者が出た場合の対応(学級閉鎖や休校など)も、当面は変わらないと考えなくてはならないであろうことも、判断の一つの材料となっていることを申し添えておきます。

保護者の皆様におかれましては、きっとさまざまなご意見があることと存じます。しかしながら、以上の状況をふまえ、学校の判断にご理解をいただけますよう、何卒よろしく申し上げます。